



東明

□令和4年6月2日発行
□男鹿市立男鹿東中学校
男鹿市船越字根木169番地

挑戦と団結の運動会・大成功

テーマ「魂情～50周年、今こそ優勝旗をつかみとれ」

5月28日(土)、雨まじりの曇り空の下、創立50周年記念運動会が行われました。コロナ禍のため、この2年間、規模を縮小し非公開で実施してきましたが、今年度は3年ぶりに通常に近い形で、そして、念願である保護者の皆様への公開とし、実施しました。

今年度の運動会は、創立50周年記念運動会です。記念すべき運動会のテーマは「魂情～50周年、今こそ優勝旗をつかみとれ」です。「魂情」と書いて「こんじょう」と読むこの言葉は、3年齊藤藍華さん発案の造語で「どんなに苦しい場面でも最後まで諦めずに戦おう」という思いが、サブテーマは2年板橋舞さんによるもので「色別で競うけれども、生徒全員が50周年の優勝旗をつかみとるという目標に向かって全力を出してがんばろう」という思いが込められています。50周年の運動会を飾るにふさわしいテーマとなりました。

今号では、当日の様子をドキュメンタリー風にお届けします。

8:50 入場行進

赤組を先頭に堂々の入場です。各団長によるリードのもと、個性あふれる掛け声にグラウンドは活気付きました。市内最大の生徒数を誇る東中生全員による入場行進は、「魂情」の思いのこもった迫力あふれるものとなりました。

9:00 開会式

生徒会長の加藤晴琉さんからは、全校生徒へ、短い期間の練習だったけれども、正々堂々胸を張って自信をもって戦おうというメッセージが伝えられました。また、選手宣誓では、各組団長から、競技は力強く、応援は華やかに、今日一日が素晴らしい思い出

となるよう全力で取り組もうという力強い言葉があり、グラウンドに響き渡りました。グラウンド上空は、それまで一面を覆っていた雲の間から青空が広がり、東中生を激励しているかのようでした。

9:30 100M走

全校生徒による100M走では、1年生から3年生までの全生徒の真剣な走りに、会場から大きな拍手が沸き起こりました。生徒控え所からは、他学年のチームメイトを激励する応援の声が上がります。初々しい1年生の走る姿から力強い3年生の走る姿へと、中学生の加速度的な成長に驚かされます。2、3年生男子のレースでは、はやる気持ちを抑えきれずライジングする場面も見られましたが、それも気迫十分であることの現れ。見応えのあるパワフルな走りに、会場からは驚きの声が上がりました。

10:20 学年レク種目

1年生は、自分の陣地の一つでも多くボールを集めるという「ボール集めゲーム」。なかなか思うように転がらないボールに悪戦苦闘です。

2年生は、昨年に引き続き、自分たちのオリジナルルールによる「五色綱引き」。どの綱を何人で引くかと、他の綱の状況を見ながらの作戦の変更がカギ。2年生のパワフルで元気な姿が見られました。

3年生は「はちやめちや障害物リレー」。米袋をはいてのジャンプやバットに頭を付けてのぐるぐる回転、マントの装着など、文字どおりはちやめちやなりレーを愉快に展開。結果は全ての色が1位という、これもまた愉快的な結末になりました。



11:05 部活動対抗リレー

パフォーマンス部門では、どのチームが最も魅力的な工夫あふれる走りを見せてくれるかが審査のポイントです。結果は、まさかの人間バトンで会場を沸かせた男子柔道部が優勝。最終ランナー女子卓球部はボールをラケットの上でバウンドさせてのゴール。競技を見守る全員から拍手喝采でした。ガチ部門レースは真剣勝負。レース前から円陣を組み、ときの声が上がります。各部の名誉にかけての戦いに勝利したのは野球部と女子柔道部でした。

12:45 チームロープ

50周年記念種目として今年度新たに取り入れられたのがチームロープです。この種目のみ、学級対抗となります。この日までの練習の成果を発揮できるように、円陣を組んで、士気を高めます。結果は、2年生が圧倒的なチーム力を見せ付け、2Cは前代未聞の40回という輝かしい成績を残しました。学級のために、みんなのために、自分の限界に挑戦したり声を掛け合い励ましたりしながら、心をつなげていく姿は輝いていました。



13:10 応援合戦

いよいよ東中の伝統、応援合戦です。練習を重ねるごとにチームの結束は高まり、どのチームも当日が最も素晴らしいパフォーマンスとなりました。完成に至るまで、3年生はたくさんの葛藤があったようですが、当日は、見事に1、2年生をまとめて上げました。赤組は、3年生が後から1、2年生をバックアップしての迫力あるコールアンドレスポンス。緑組は、一体感のあるパフォーマンスと身体の反りで歌い上げた校歌。一端終わったと見せかけてまだまだ続く、という笑いも盛り込んだ構成で魅せた黄組。結果、校歌やエールの全てにおいてバランスよく構成され、意気込みが伝わった青組が一歩リードし、優勝を飾りました。

